

ミャンマー：国連専門家が政府に残り 2200人以上の良心の囚人の釈放を求める

(野党指導者アウンサンスーチー釈放1ヶ月後の、ミャンマーの人権状況に関する国連特別報告者トマス・オジア・クインタナによる声明)

ジュネーブ(2010年12月13日) - 「ドー・アウンサンスーチー釈放から1ヶ月、私は、ミャンマー政府に対し、現在少なくとも2202人と推定され、その多くがこの瞬間に厳しい収容状況によって重大な健康問題に苦しんでいる、残りの良心の囚人の釈放を要求する。

さらにもう一人の良心の囚人が12月8日に死亡したことを、私は深い悲しみに包まれて知った。ウー・ネイミンダ(別名ミョーミンまたはネイウイン)は、50歳であり、30年間仏僧であった。彼は、1988年以降に獄死した良心の囚人の145人目である。

彼は、1999年9月9日、民主化要求デモを支持するビラ配布の容疑で逮捕され、非合法結社法および緊急事態法の下で起訴されて禁固20年に処されていた。被拘禁者たちだけでなくその家族も追加的に罰する方法として非常に頻繁に使われている方法であるが、彼は家族から遠く離れたモン州のモーラメイン刑務所に移送され、そのため家族が彼に面会して必要な食料や薬を差し入れることが困難になり、彼の健康は悪化した。

私は、インセイン刑務所の第4独房棟にいる数人の被拘禁者たちに関して受けた報告について、深く懸念している。彼らは、栄養失調に関連した疾患および結核に苦しんでいるようだ。

ミャンマーが民主主義移行のために前進しようとし、かつ新政府が人民の平和と繁栄のための新たな時代をつくろうと模索している時、良心の囚人たちが即時かつ無条件に釈放されることは重要な意味を持つ。これらは、自身の基本的な人権、表現の自由および集会の自由を行使したことを理由に投獄された者たちだ。

釈放は、ミャンマー新政府がこれらの基本的な自由を守る意思があること示す強い意思表示となろう。また、国内外の人々によって歓迎されるであろう。11月7日の国政選挙前、政府は一部の被拘禁者を釈放するかもしれないと示唆していた。そのような良心の囚人の釈放は行われなかった。

政府によると、国内法、特に良心の囚人の多くを有罪とするために使われたものが、国際法に準じて改正される過程にあり、また、新しい議会が取り上げる問題の一つになるそうだ。全ての良心の囚人が、それらの検討より前に釈放されるべきだ。」

トマス・オジア・クインタナ(アルゼンチン)は、国連人権理事会により、2008年5月に任命された。特別報告者として、彼は、いかなる政府や組織からも独立しており、彼の個人的立場で務めている。

(仮訳: 在日ビルマ人難民申請弁護団 2010年12月17日)